

2005年5月19日 説明会

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2005年3月期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

05 / 3は実質増収ながら営業減益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2005年3月期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	04/3	05/3(E)	05/3	05/3対04/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,966	4,597	4,614	-351	-7.1%
営業利益	139	137	134	-4	-3.5%
経常利益	120	128	128	7	6.6%
当期純利益(損失)	-18	54	58	77	-

1.売上高

05 / 3 (E)・・・2005年3月期見込・・・は2月10日に発表したもの

好調の加工食品に加え畜産が12%増収、低温物流もセグメント区分変更などを考慮すると大幅増
04 / 3にあったユキワの連結除外の影響を除けば実質4%の増収に

2.営業利益

加工食品は工場操業度向上でコストが低減した一方で、原料鶏肉・牛肉の価格上昇とアセロラ減収が響き減益

水産は「たこ」や「かに」など主力商材の取扱い環境悪化が響く、商材の絞込みとユーザルートの拡大、付加価値の高い加工品の販売に注力するも営業損失を解消できなかった

低温物流は拠点開設が続き初期費用が嵩むが、地域保管の回復がカバーし計画を上回る

3.経常利益

金融収支は04 / 3比4億円改善、持分法投資利益は04 / 3比13億円のプラスに。

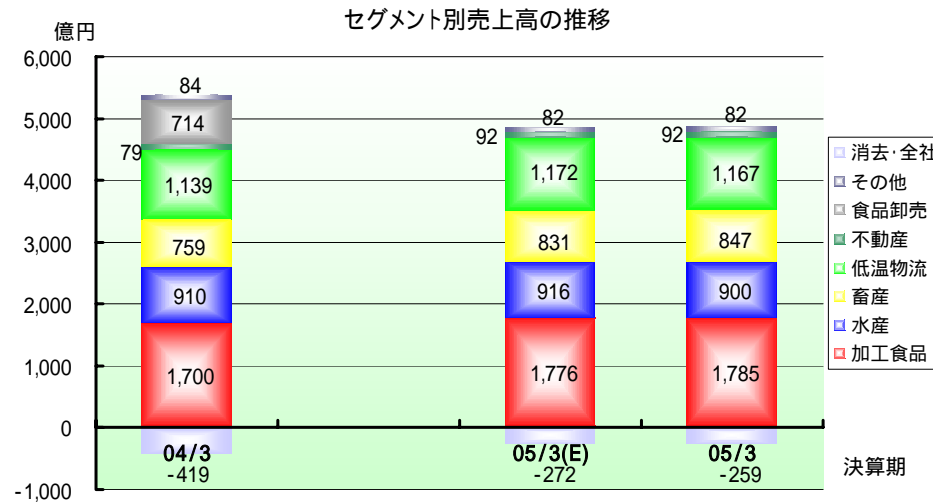
4.当期純利益(損失)

04 / 3の京都ホテル賃貸土地・建物の売却損の影響が無くなり特別損益が前期比138億円改善 1

加工食品と畜産は増収だが鶏肉の高騰が響き減益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)

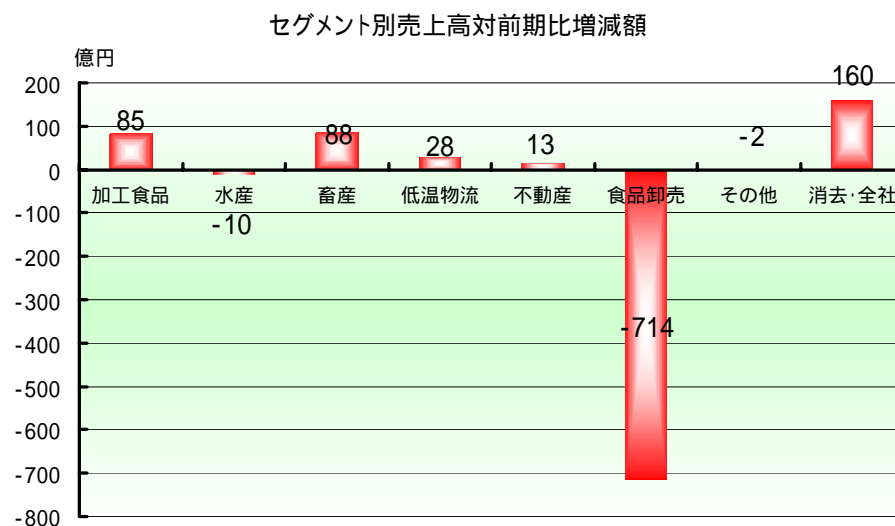


1.加工食品

全体では04 / 3比5%の増収。アセロラは減収となったものの、業務用ハンバーグ、米飯類など多くのカテゴリが好調、下半期以降チキン加工品が急速に回復し大幅な増収に。一方、利益面では鳥インフルエンザやBSEなどの影響で主要原料価格が上昇、商流費の増加、アセロラの減収もあり減益となった。

2.水産

国内販売価格の低落が続く一方、世界市場の拡大に伴う一部魚種の買付競争激化による価格上昇から主力商品の調達を絞込んだことと、新潟県中越地震や12月の暖冬で観光需要や年末需要が減退、売上高は04 / 3比1%減、利益面では04 / 3比で改善したものの営業損失を解消できなかった。



3.畜産

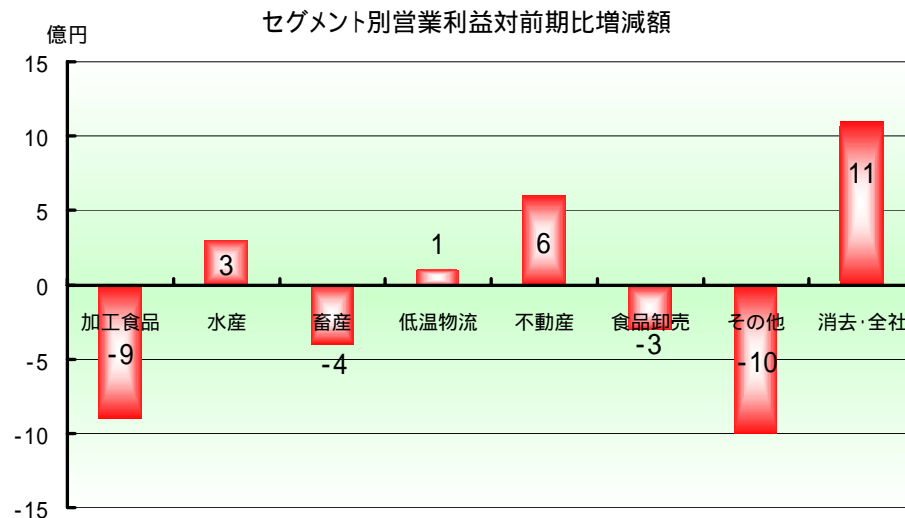
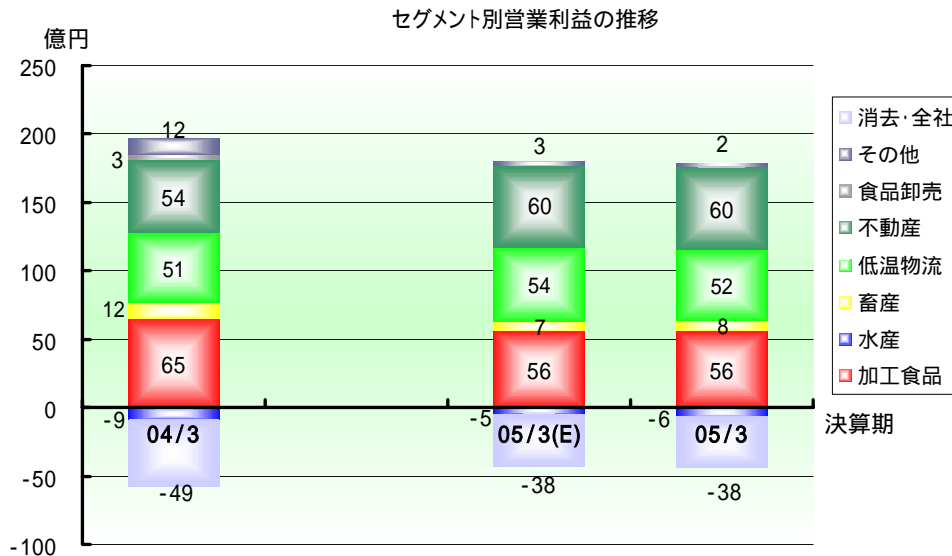
米BSEや鳥インフルエンザ発生による輸入停止が長期化する中で国産や他国産の取扱い増でカバーし増収、営業利益は一時需給が極端に逼迫した鶏肉の買付価格上昇を余儀なくされ逆鞘が発生収益悪化、04 / 3比減益に。

(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている) 2

低温物流は増収・増益を確保、不動産は分譲が好調

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4. 低温物流

物流ネットワークは大手量販店の関西地区をはじめ8件の新規案件の稼働開始で大幅増収だが初期費用の発生で減益。

地域保管は組織再編による食品部門のセグメント変更や売却による影響を除けば増収、固定費圧縮や運営コストの削減などの効果もあり増益。

5. 不動産

京都市下京区や群馬県高崎市の土地売却などにより増収・増益に。

6. その他

バイオサイエンスは試薬・培地製品が順調に推移したものの、化粧品原料などの機能性素材販売が伸び悩み減収減益。

米国のてんぐはBSEの影響が長期化、生産大幅縮小が続き営業損失に。

調理冷食は業務用・家庭用とも目標を上回り好調

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

ニチレイ(単体)の冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

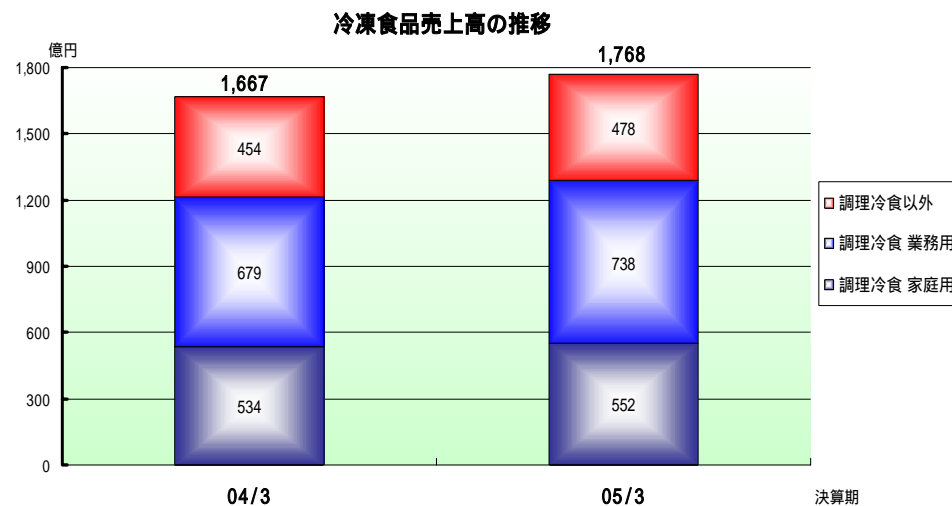
04/3比6%の増収、調理冷食は家庭用・業務用を合わせると6%の増収と好調に推移。冷凍野菜は「ハッシュドポテト」「枝豆」「そら豆」などの売上伸長により5%の増収。

2. 調理冷食

家庭用:売上は04/3比3%の増収。鳥インフルエンザの影響を受けたものの、「ミニハンバーグ」、「甘えびシューマイ」、「わが家のごちそうえびピラフ」などが増収に寄与し好調に推移した。「お弁当にGood!」シリーズは「からあげチキン」「ミニハンバーグ」や新商品の「グリルドチキンステーキ」「鮭のバターしょうゆ焼」が好調に推移した。

業務用:売上は04/3比9%の増収。上期に鳥インフルエンザの影響を受けたチキン加工品は下半期に急速に回復、食肉加工品は「グレイビーハンバーグ」が継続的に売上を伸長。

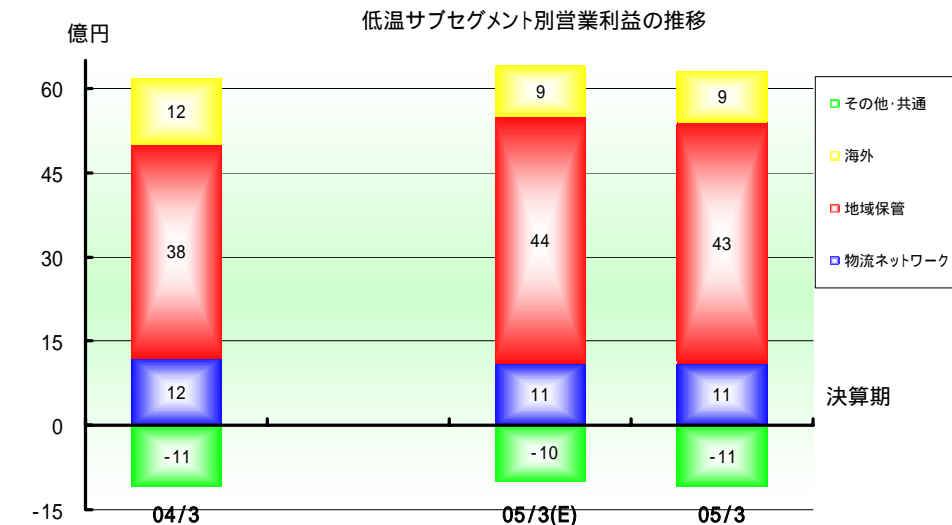
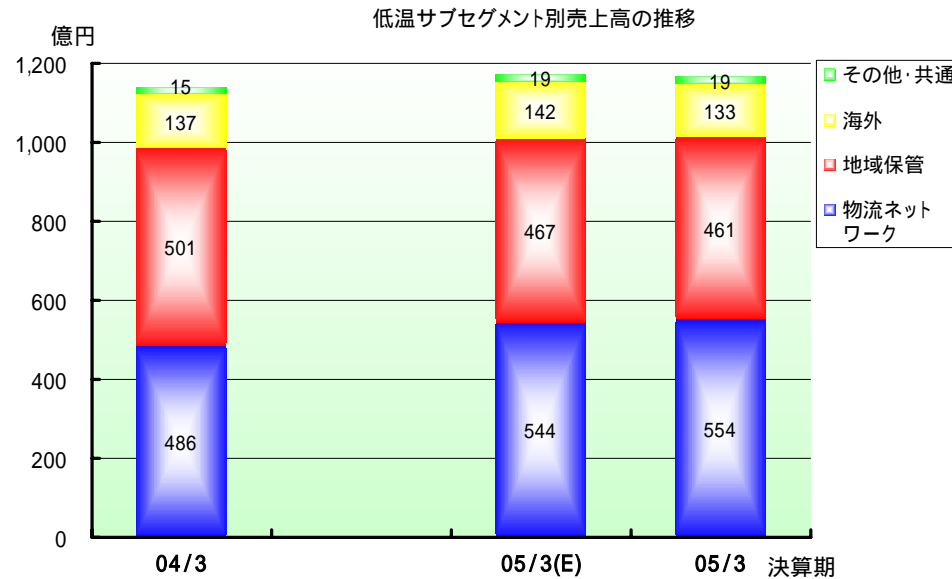
カテゴリー別には「グレイビーハンバーグ」が牽引する食肉加工品を筆頭に米飯類や中華惣菜が好調、チキン加工品は下期に急速に回復し増収に貢献。



低温物流は地域保管の回復が貢献し増益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 物流ネットワーク

下期に京都、盛岡で大手量販店向け物流センターが新設稼働、通期で7拠点8案件が新設稼働し増収に、初期費用の影響で営業利益は減益。

2. 地域保管

組織再編に伴う中国地区食品部門のセグメント変更や九州地区食品部門の売却の影響を除けば6%の増収、地場商材の集荷徹底が効果を上げ、地域分社化による固定費の圧縮や運営効率化が進み営業利益は増益。

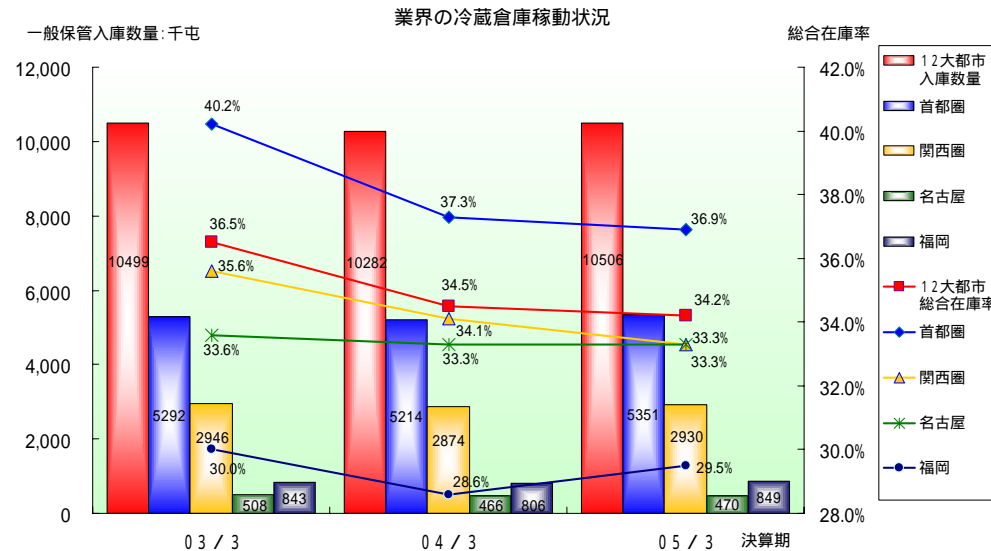
3. 海外

前期の関税優遇措置によるチキンの一時的な物流需要が今期は無く、一部で競争激化による保管料率の下落もあり減収減益。

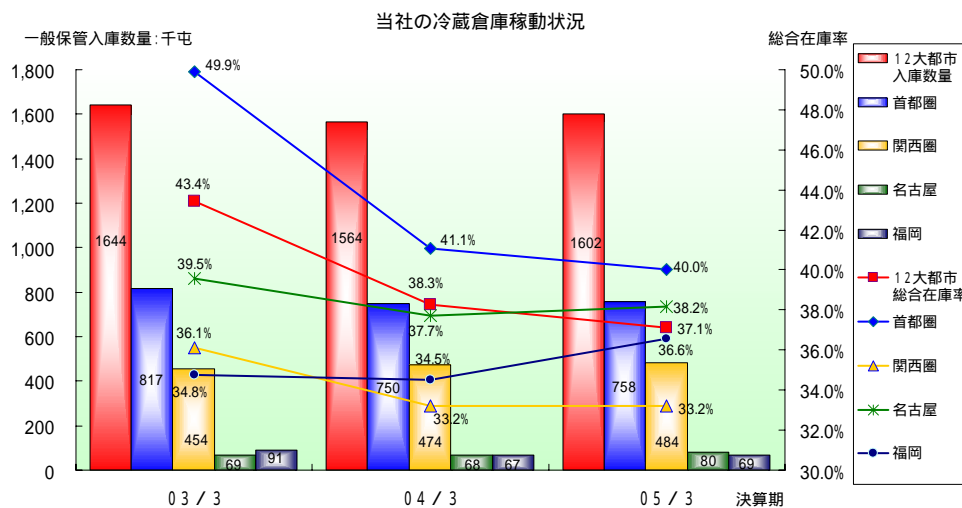
輸入畜産物減で首都圏が厳しいが全般的には反転の兆し

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



1. 業界の状況

入庫量は2%の増加、在庫率は低下。

2. 当社の状況

入庫量は米国産牛肉輸入停止の影響を受けた首都圏を除けば地場密着営業による新規商材の集荷で回復傾向、回転の速い冷凍食品の取扱比率が高まり在庫率は低水準での推移が続く。

3. 業界の設備能力

業界全体では微減。

冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2005年1月1日現在)

社名・グループ名	拠点数	能力 万トン	04/1比 増減	能力 シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	96	135	-2	12%	全国
マルハグループ	56	67	-4	6%	全国
横浜冷凍	36	55	1	5%	全国
東洋水産グループ	23	41	0	4%	全国
日本水産グループ	24	35	0	3%	全国
五十嵐冷蔵	8	19	0	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
兵食	7	11	0	1%	関西
ヒューテックノオリン	8	11	0	1%	全国
キューソー流通システム	21	11	0	1%	全国
中央冷凍	8	9	0	1%	関東
東京豊海冷蔵	4	9	0	1%	関東
山手冷蔵	5	9	0	1%	関東、中部
川西倉庫	6	9	-1	1%	関東、関西
港湾冷蔵	6	8	0	1%	関東、関西、九州
二葉	4	8	0	1%	関東
その他	1,367	625	-8	57%	
合計	1,689	1,091	-6	100%	

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

継続的にB / Sを改善、有利子負債残高は目標を達成

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

05 / 3期連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

【主な要因】

科目	04/3	05/3	増減
(資産の部)			
流動資産	1,081	1,088	7
固定資産	1,765	1,675	-90
資産の部合計	2,847	2,764	-82
(負債・資本の部)			
流動負債	1,019	933	-85
固定負債	920	883	-36
負債の部合計	1,940	1,817	-122
少数株主持分	5	6	1
資本の部	901	940	38
(有利子負債)	1,243	1,119	-124
科目	04/3	05/3	増減
(設備投資額)	51	49	-2
(減価償却実施額)	119	111	-7

設備投資の抑制や土地・建物などの売却などにより有形固定資産が98億円減少、投資有価証券は売却などにより26億円減少した一方、子会社の清算終了に伴い繰延税金資産が18億円増加し、低温物流事業の組織再編に伴う退職金支給により前払年金費用が23億円増加した

社債償還や借入金返済で218億円減少する一方、仕入債務やコマーシャルペーパーの増加と、財務安全性の向上のため長期借入45億円を実施したことにより108億円の増加

05 / 3の期末残高目標1,200億円以下を達成。

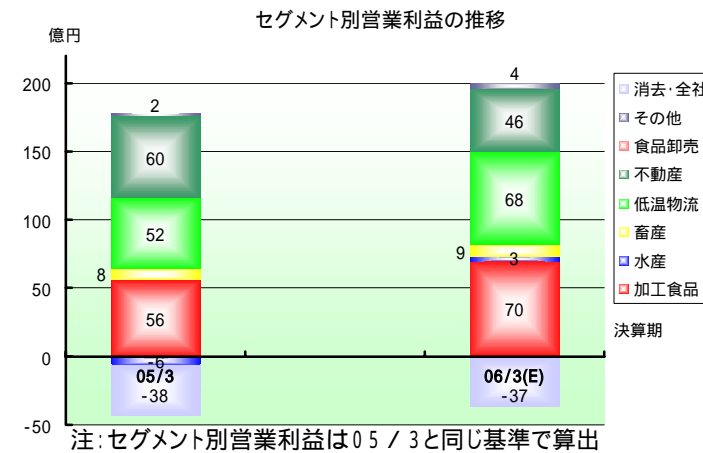
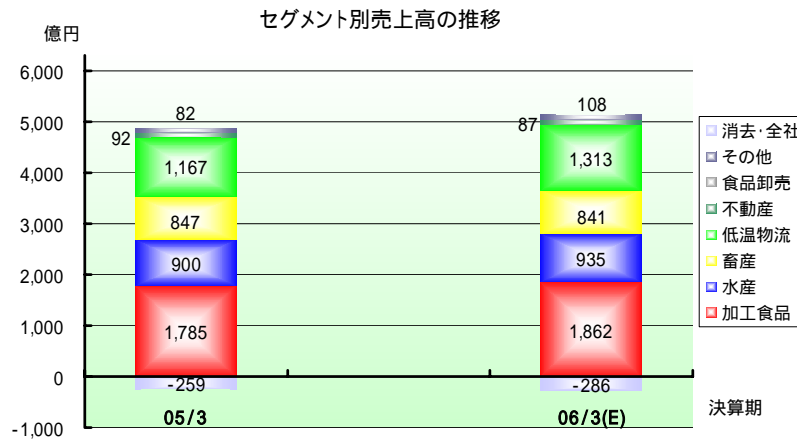
05 / 3の設備投資の主なもの：
ニチレイフーズ白石工場のライン増設
名港中央物流センターの新設
岩槻物流センターの新設
鹿児島市場事業所で製氷工場の新設

戦略を着実に推進し増収・増益を果たす

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

2006年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	05/3	06/3(E)	06/3(E)対05/3比較	
			増減額	増減率
売上高	4,614	4,860	245	4.9%
営業利益	134	163	28	20.9%
経常利益	128	157	28	21.8%
当期純利益	58	73	14	24.2%



1. 売上高はコア事業である加工食品と低温物流が牽引し増収に。
2. 加工食品は、業務用調理冷凍食品を中心に売上高を伸長し、グループ工場の操業度改善による利益拡大を図る。
3. 低温物流は、物流ネットワーク事業で05/3に新設稼動した物流センターが通期で寄与し増収、初期費用が無くなり増益に。

特別損益は減損会計の導入で前期比マイナスに

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		05 / 3対04 / 3比較			06 / 3E対05 / 3比較				
		05 / 3	04 / 3	増 減	06 / 3E	05 / 3	増 減		
【営業外収支】 (主要項目)		- 5	- 18	+ 12	【営業外収支】 (主要項目)		- 6	- 5	- 1
金融収支		- 13	- 17	+ 4	金融収支		- 12	- 13	+ 1
持分法投資損益		+ 14	+ 1	+13	持分法投資損益		+ 12	+ 14	- 2
【特別損益】 (主要項目)		- 20	- 159	+138	【特別損益】 (主要項目)		- 34	- 20	- 14
投資有価証券売却益		+ 12	+ 18	- 5					
転籍に伴う退職給付 債務戻入益		+ 9	-	+ 9					
特別退職金		- 9	- 4	- 5					
固定資産売却損		- 9	- 150	+ 140					
販売用不動産評価損		- 9	-	- 9					

持分法投資損益の増減の主な内訳

05 / 3: アールワイフードサービスが04 / 3比プラス7億円、京都ホテルがプラス3億円、パシフィックバイオロジックスが持分法適用から外れプラス3億円

06 / 3E: 京都ホテルの持分低下により1億円のマイナス

有利子負債の削減を目的に株式を流動化

低温物流事業の従業員転籍に伴い退職給付債務戻入益を計上

05 / 3は低温物流事業の従業員転籍などに伴い特別退職金9億円を計上

05 / 3は福島県所在の土地売却により計上、04 / 3は京都ホテルに賃貸していた土地・建物の売却に伴う損失が主なもの。

時価の下落に伴い販売用不動産評価損を計上

06 / 3に発生が見込まれる主なものは、減損会計導入に伴う損失、固定資産売却損

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	04/3	05/3(E)	05/3	06/3(E)
(売上高)				
加工食品	1,700	1,776	1,785	1,862
水産	910	916	900	935
畜産	759	831	847	841
低温物流	1,139	1,172	1,167	1,313
不動産	79	92	92	87
食品卸売	714	-	-	-
その他	84	82	82	108
全社または消去	-419	-272	-259	-286
合計	4,966	4,597	4,614	4,860
(営業利益)				
加工食品	65	56	56	70
水産	-9	-5	-6	3
畜産	12	7	8	9
低温物流	51	54	52	68
不動産	54	60	60	46
食品卸売	3	-	-	-
その他	12	3	3	4
全社または消去	-49	-38	-38	-37
合計	139	137	135	163

05/3(E)は2月10日に発表したもの

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記されたニチレイの現在の計画、見通し、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。このため、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠して投資判断されることは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の判断に基づき、常にニチレイが将来の見直しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます。

ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢
および業界環境

米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動

成長戦略とローコスト構造の実現性

有利子負債削減の実現性

偶発事象の結果 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。